

DPRI NEWSLETTER

113
2026.10

ISSN 2760-9286 (Print)
ISSN 2760-9294 (Online)

特集
02

Q&A 防災研の先生に聞いた!!



先生の基本情報

先生のルーツを教えてください!

ライフスタイルや趣味は?

日々の通勤とお昼は?

研究スタイル、出張事情は?

全国の研究訪問マップ

連載

- 09 若手研究者から ②⑤ 高山 翔揮
火山噴火後の土砂災害に備える
- 10 お道具拝見 ⑫ 小林 草平
虫を見て川を知ろう サーバーネットとDフレームネット
- 11 新スタッフ紹介
DPRI 掲示板 受賞・表彰・就任/人事異動
- 12 令和8年熊本地震についての災害調査報告
編集後記



京都大学防災研究所

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University



防災研の先生って どんな人なんだろう？



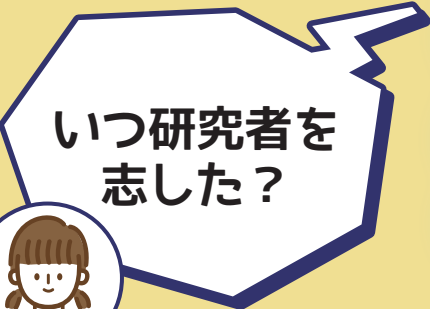
インターネットやAIで何でも気軽に調べられる現在、研究者の名前を検索すれば研究実績を知ることができます。しかし、普段どのような生活を送っているか、どのような学生時代を過ごしたかといった研究者の人物像に関する情報は数が限られていることが現状です。そこで、本特集では防災研の先生を対象としたアンケート調査を実施し、研究者の素顔を調査しました。防災研の先生大解剖!!

\\ 特集 \\

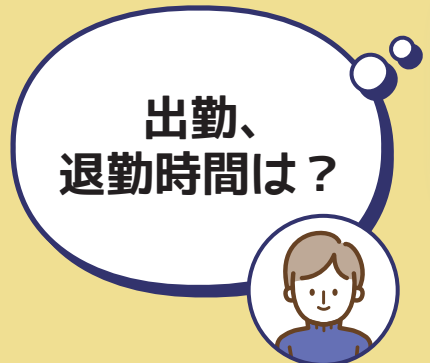
Q&A 防災研の 先生に聞いた!!



出身地は？



いつ研究者を
志した？



出勤、
退勤時間は？



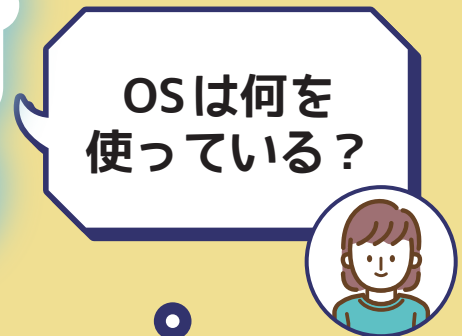
どのくらい
出張するの？



小学校の時
好きだった
科目は？



趣味は？



OSは何を
使っている？

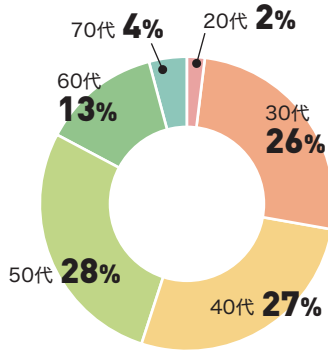
防災研の基本情報

- 所在地：** 京都府宇治市五ヶ庄
京阪宇治線「黄檗駅」から徒歩10分、
JR奈良線「黄檗駅」から徒歩7分
- 教員数：** 121名
(2026年4月1日付、客員教員を除き、特定教員・
特任教員を含む)
- 研究内容：** 地球規模の災害だけでなく、地域特有の
災害について研究し、災害の仕組みを
明らかにする。また、社会で役立つ防災・
減災の方法を考えることで、安全・安心な
社会づくりに貢献する。さらに、世界の
安定と持続可能な社会の実現に貢献でき
る、次世代の人材を育てる。

先生の基本情報

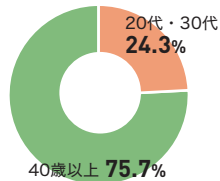
まずは、アンケートに回答してくれた先生の基本情報！
防災研の研究者は、大学全体や全国のデータから外れているのかな？

1. 年代



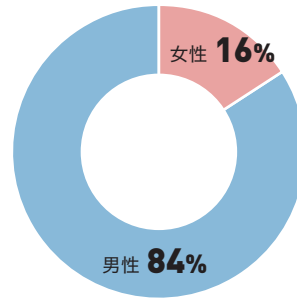
アンケート回答者は、
京都大学全体の教員と
比べて若手がやや多め。

京大全体では？



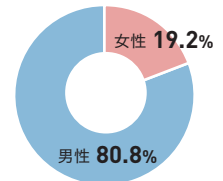
データで見る京都大学
アカウンタビリティレポート2025より作成

2. 性別



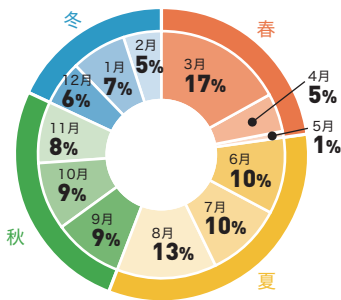
およそ6人に1人が
女性研究者。

京大全体では？

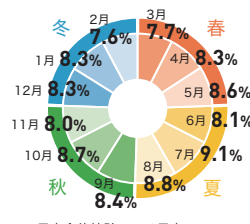


データで見る京都大学
アカウンタビリティレポート2025より作成

3. 誕生月



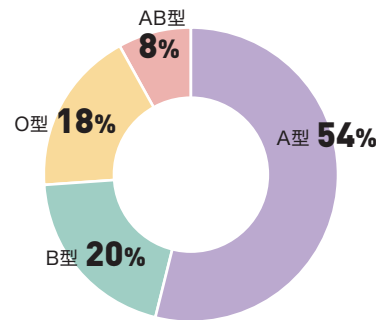
日本全体では？



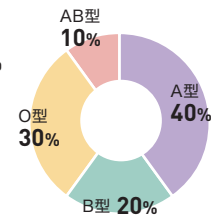
日本全体統計でみる日本
<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003411596>より作成

日本全体では、誕生月による大きな偏りはないものの、
7・8月がやや多く、2・3月が少なめ。
一方、防災研の先生は3月生まれがかなり多いという結果
に。季節別では夏生まれが多く、冬生まれは少なめ。

4. 血液型



日本全体では？

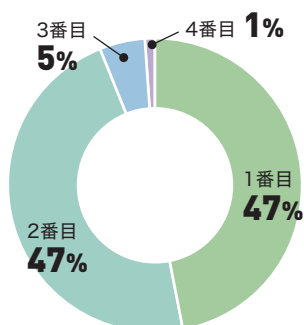


兵庫県赤十字血液センターのHPより作成
(https://www.bs.jrc.or.jp/kk/hyogo/donation/m2_02_01_00_bloodtype.html)

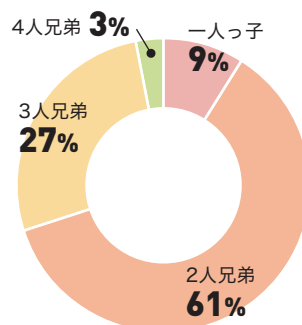
日本全体の平均よりもA型が多めで、O型が少なめ。
防災研で献血をしたら、A型が多めに集まりそう。

5. 兄弟姉妹構成は？

上から何番目？



何人兄弟？



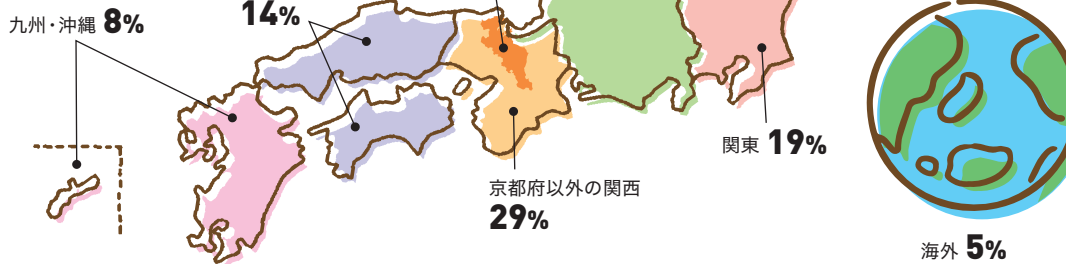
1番目と2番目の人が大半。兄弟構成は2
人兄弟が60%を占める。中には双子とい
う人も。
国立社会保障・人口問題研究所による出
生動向基本調査によると、一人っ子の割
合は18.6%、2人兄弟は54.1%、3人兄
弟は17.9%らしい。
これと比べると、防災研の先生は一人っ
子が少なめで、3人兄弟が多めというわけ
ですね。

先生のルーツを教えて!

防災研の先生の生い立ちは？
学生時代について聞いてみた。

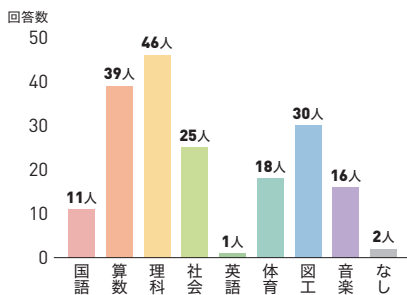
6. 出身地は?

関西出身者が約1/3!
関西を知り尽くしている先生が多い。続いて多いのは関東。中国・四国地方出身者も比較的多いみたい。海外出身者も複数人いて、日本中だけでなく、世界から集まっていることが分かる。

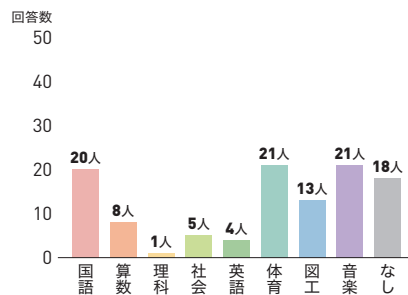


7. 小学校の時...

好きだった科目

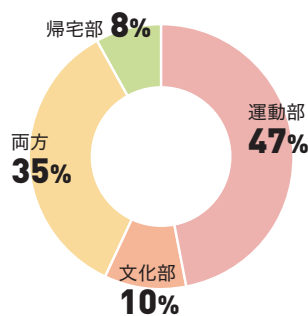


苦手だった科目



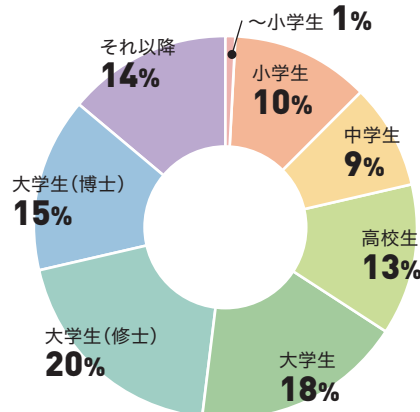
- 算数や理科が好きだった人が多いようです。次いで多いのが図工。今も研究道具に関わるものづくりなどに生かされているのかもしれないね。英語が少なのは、当時は英語教育が限られていたからかな？
- 苦手だった科目は、好きだった科目に比べて回答数が少なく、苦手な科目が少なかった人が多いみたい。「苦手な科目はなし」と答えた先生は全体の約 1/4。そんな中、国語・体育・音楽の回答数はやや多め。理科の回答数が極端に少ないのも面白い。

8. 学生時代、所属したことのある部活



学生時代、部活動をやっていた人がほとんど。運動部経験者は8割超え！研究者にも体力づくりは必要ですからね。

9. いつ研究者を志した?

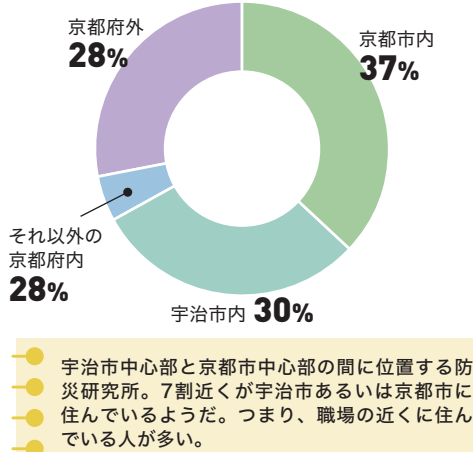


6割以上が、大学生以降に研究者を目指し始めたみたい。研究を進めるうちに研究の魅力を知って、研究者を志した人が多いということだろうか。博士課程以降、あるいは社会人になってから研究者を目指した人も一定数いる。これを読んでいるあなたも、今から研究者を目指しても遅くないかもしれないよ。中には、小学生か、それより前から研究者になるビジョンがあった人も!? 将来設計が綿密すぎる。きっかけを聞いてみたい。

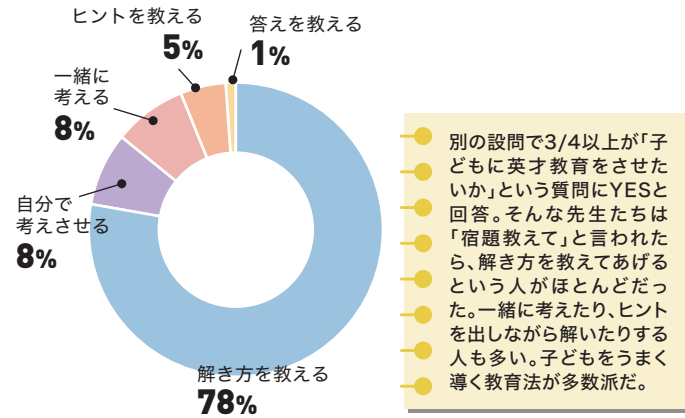
ライフスタイルや趣味は？

プライベートをどう過ごしているのか聞いてみた。
ストレス解消方法は参考になる！？

10. 防災研の先生は どこに住んでいる？



11. 子どもが「宿題を教えて!」と言ってきた!



12. 趣味は？



その他の回答

料理、スポーツ観戦(野球、サッカー、フィギュアスケート)、映画・ドラマ鑑賞、食事、家庭菜園、地図、プログラミング、資産運用、数理パズル、アート鑑賞、お絵描き、手芸、模型、こどもの鉄道趣味に付き合う、バイク、車の運転、猫、寝る、研究

13. ストレス解消法は？

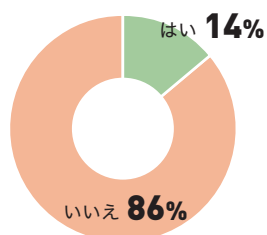


その他の回答

おいしいものを食べる、外食、お絵描き、家庭菜園、睡眠、登山、Going to nature、Youtube鑑賞、料理、お風呂、子どもと遊ぶ、ドライブ、旅行、読書、スポーツ観戦、コーヒー、写真撮影、手芸、笑う、ファイル掃除、趣味を楽しむ、研究、現地調査

ところで

趣味は鉄道ですか？



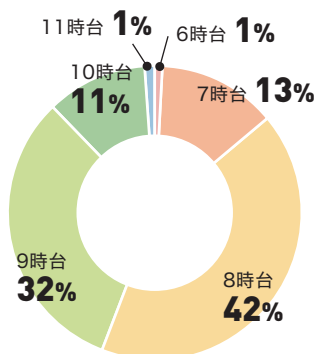
防災研の先生には鉄道ファンが多いという先入観のもと、趣味は鉄道か聞いてみたところ、「はい」と答えた人が約14%！ やっぱり比較的多い気がする。鉄道以外の趣味は、スポーツや音楽が多かった。複数の趣味を答えた人も多く、かなり幅広い趣味を持っているようだ。
ストレス解消方法は、スポーツやウォーキングなどの運動が多数派。普段はデスクワークが多いので、適度に体を動かすのは大事ですね。ストレス解消のためにお酒を嗜む先生も。大人だ。
よく見ると、趣味やストレス解消法に「研究」と答えている先生がいるのですが……。

日々の通勤とお昼は？

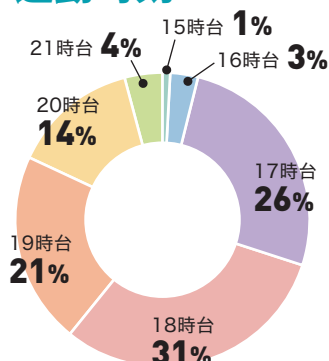
研究者ってどのように仕事をしているの？働き方について聞いてみた！

14. 通勤スタイルと勤務時間は？

出勤時刻



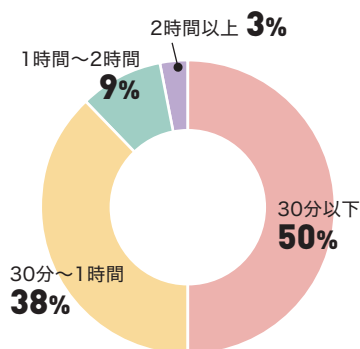
退勤時刻



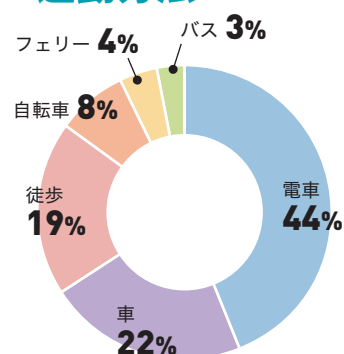
出勤時刻と退勤時刻が明確に決まっていない場合が多い研究者。防災研では、出勤時刻は8～10時、退勤時刻は17～19時の先生がほとんどでした。一般的な公務員の勤務時間が8時30分～17時15分なので、普通の公務員とほぼ同じような働き方をしている先生がそう。一方で、10～11時に出勤したり、15～16時に退勤したりする先生も。フレキシブルに働けるのは、研究職の魅力かもしれない。

通勤時間30分以下が5割と、近場に住んでいる先生が多い。宇治市中心部や京都市からもアクセスが良く、短い通勤時間で済むのは宇治キャンパスの魅力の一つだ。中には2時間以上かけて通っている先生もいるけど…大変…。宇治キャンパスはJRと京阪の駅が近いから、通勤方法は電車が多数派。気になるのが、5番目に多かった「フェリー」という回答。遠隔地勤務の先生かな？ かつこいい。

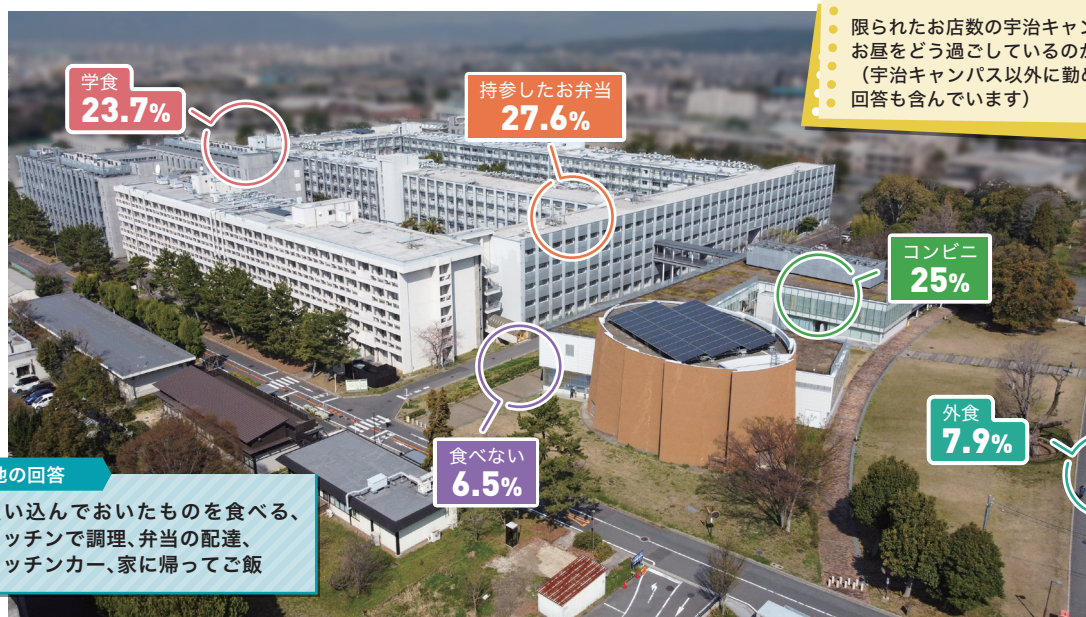
通勤時間



通勤方法



15. お昼ごはんはどこで？



限られたお店数の宇治キャンパス周辺。お昼をどう過ごしているのか聞いてみた。(宇治キャンパス以外に勤めている先生の回答も含んでいます)

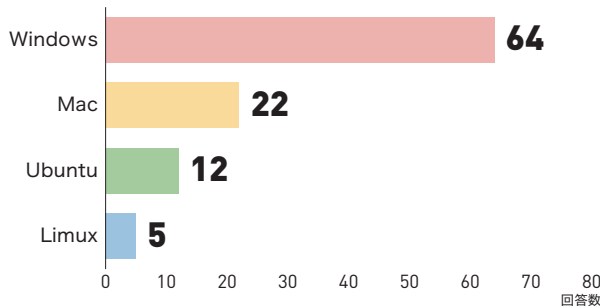
その他の回答

買い込んでおいたものを食べる、キッチンで調理、弁当の配達、キッチンカー、家に帰ってご飯

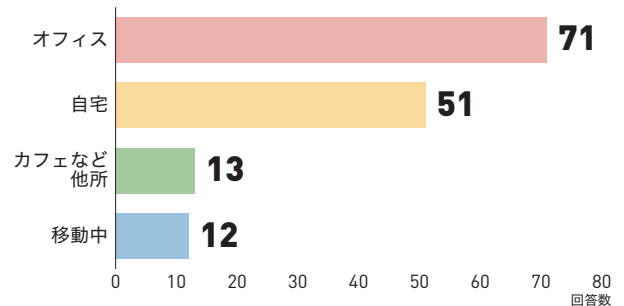
研究スタイル、出張事情は？

仕事ぶりを、アイデアや出張事情の観点から聞いてみた。

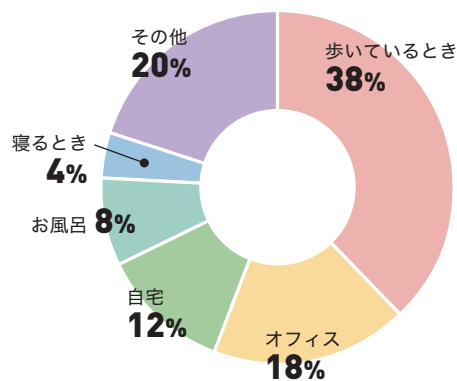
今となっては研究の必需品パソコン! 16. その使用 OS は？



研究成果の主軸の一つである論文! 17. どこでよく書く？



18. 大切な研究アイデア! どこで一番出る？

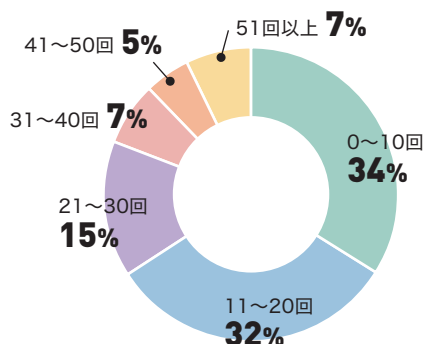


その他の回答

電車の中2、トイレ2、被災地、ランニング中、雑務から解放されているとき、人と雑談しているとき、オフィス以外のすべて、外出中(特に寒い時)、ピアノを演奏しているとき、移動中、全部、ぼーっとしているとき、飲み会、アイデアはあまり出てこない。

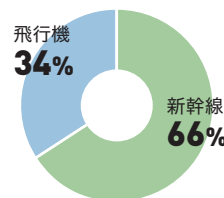
ストレス解消方法に続き、「歩く」が再び上位に。研究者にとって、適度な運動は必須らしい。お風呂・寝るとき・トイレなどは、「リラックスしているとき」とまとめることもできそう。「被災地」という回答は、防災研の先生ならではの。個人的には「飲み会」という回答が好きです。「アイデアはあまり出てこない」？ドンマイ。

19. 1年で何回出張に行くの？



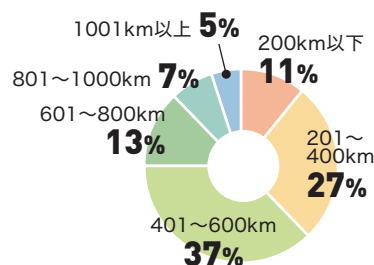
- 学会や研究会だけでなく、現場や被災地に赴くことも多い。ひと月あたり1回以上出張に行く先生が大半だった。中には50回以上行く人も! 1週間に一度のペース! やはり体力づくりが必須ですね。
- 飛行機より新幹線が好きな人が多いみたい。宇治キャンパスは京都駅まで約30分と、とても便利ですからね。空港は遠い。

新幹線派? 飛行機派?



● 現場や被災地を訪れたり、観測活動を行ったりすること多い。
● 相当な距離を運転したことがあるのでは!?

1日最長運転距離は?



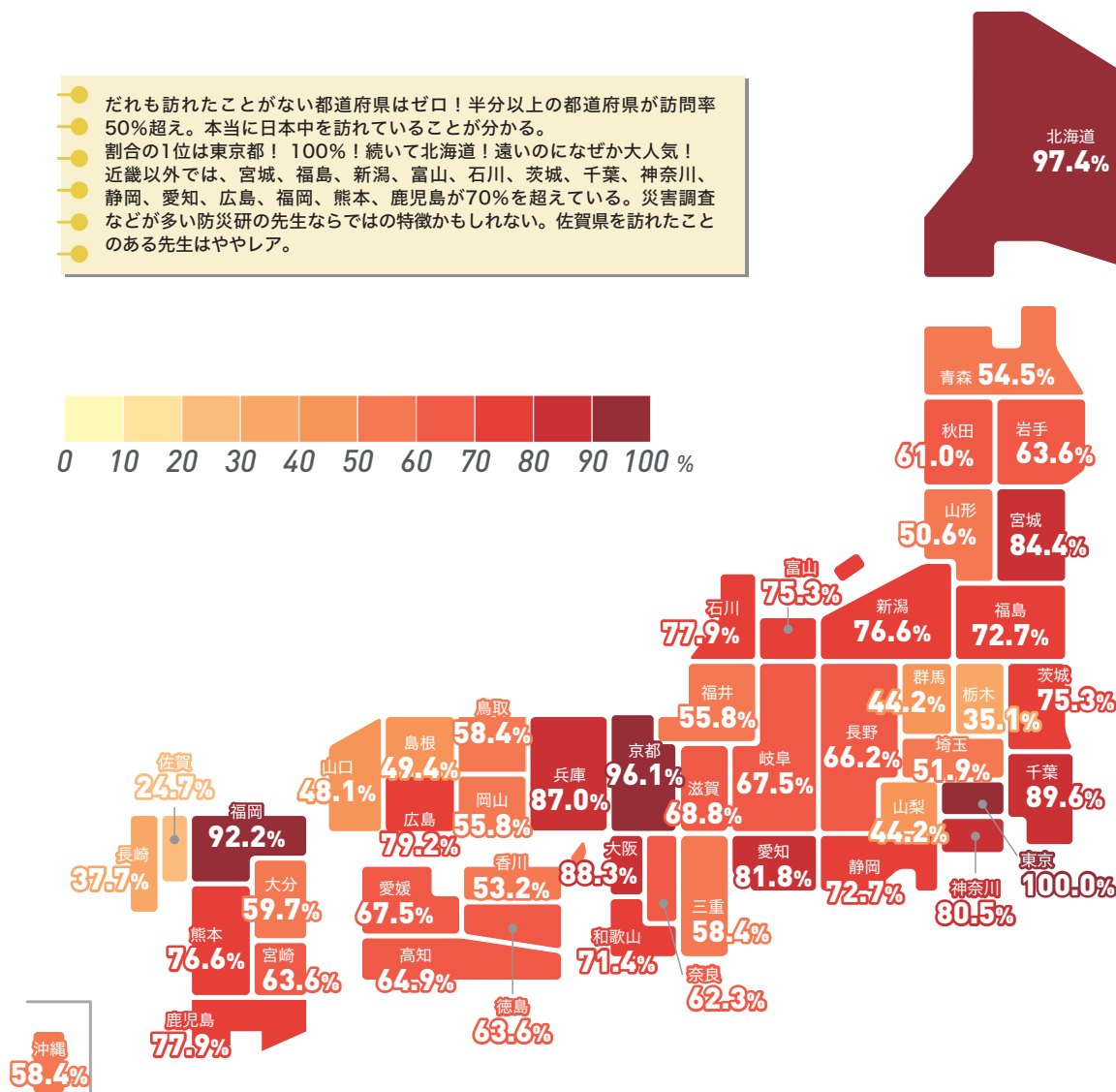
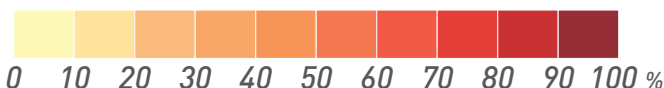
● 多数派は401~600km。これは京都から東京、新潟、あるいは福岡あたりまで行ける距離。1000km以上もいて驚き。京都から東京往復? 片道なら北は青森、南は鹿児島まで行けちゃう。防災研の先生は、大きな観測機材を運ぶこともあるし、公共交通機関では行きにくいところを訪れることもあるから、車の運転はとても重要みたい。

全国の研究訪問マップ

日本中を飛び回る防災研の先生。
各都道府県を訪れたことのある人数を割合にしてまとめてみた。

20. 研究関係で行ったことのある都道府県

- だれも訪れたことがない都道府県はゼロ! 半分以上の都道府県が訪問率50%超え。本当に日本中を訪れていることが分かる。
- 割合の1位は東京都! 100%! 続いて北海道! 遠いのになぜか大人気!
- 近畿以外では、宮城、福島、新潟、富山、石川、茨城、千葉、神奈川、静岡、愛知、広島、福岡、熊本、鹿児島が70%を超えている。災害調査などが多い防災研の先生ならではの特徴かもしれない。佐賀県を訪れたことのある先生はややレア。



今回の調査のポイント

防災研の先生を対象とした今回のアンケート調査で、ホームページでは知ることのできない、研究者の人となりや生活が見えてきました。特に、防災研の先生方はアクティブに日本中、あるいは世界中を飛び回りながら研究している、という印象を受けました。プライベートでは、多趣味な先生が多く、公私ともにアクティブなんですね。この調査結果をきっかけに、研究者に少しでも興味や親し

みを持ってもらえたらうれしいです。
最後に、アンケートに協力してくれたすべての先生に改めて感謝申し上げます。



若手研究者から ②

防災研の将来を担う、准教授・助教・研究員・博士課程学生ら
若手研究者による研究を紹介します。



高山 翔揮
TAKAYAMA Shoki

火山防災研究センター
准教授

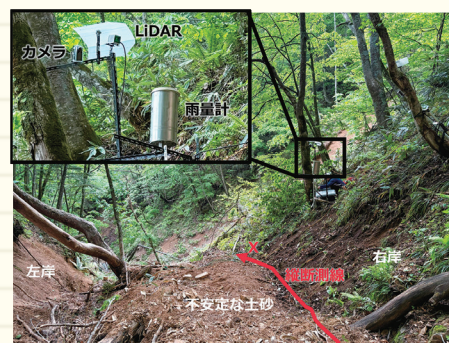
火山噴火後の土砂災害に備える

穂高砂防観測所とは

私は、活火山・焼岳の火口から約3.5kmの場所にある穂高砂防観測所を拠点として、土砂災害の防止・軽減に向けた研究を行っています。焼岳は1962年に噴火し、山腹が火山灰に覆われ植生が失われたことで、雨水が地中に浸透しにくくなり、その後十数年にわたって、弱い雨でも土石流が頻発するようになりました。それを契機に設立された穂高砂防観測所は、約60年にわたり、山地流域から流れ出す水や土砂の観測を続けています。このような長期観測を継続している施設は世界的にも少なく、貴重な観測データが蓄積されています。現在は、この観測基盤を活用し、次の焼岳噴火に備えるための新たな土砂流出モニタリング手法や、噴火後の土砂災害を予測する手法の開発を進めています。

山地からの土砂流出をとらえる

焼岳北西側に位置する足洗谷流域のヒル谷では、溪流が始まる源頭部（最上流部）を対象に観測研究を行っています。この研究では、



LiDARが記録した大雨時における縦断地形の変化（2025年6月23日）

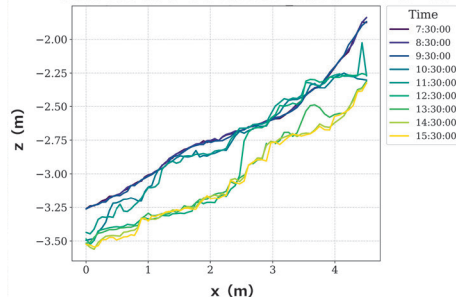


図1 ヒル谷源頭部に設置した観測装置と、2025年6月23日の大雨時に記録された縦断地形の変化。下流側から上流側へ侵食が進行した様子が確認できる

カメラや水位計に加えて、1秒間に数十万点の3次元座標を取得できるLiDARを設置し、大雨時に地形が変化して土砂が流れ出す様子を、高い時間・空間分解能で記録しています（図1）。2025年6月23日の大雨では、源頭部から土砂が流出する一連の現象をLiDARで捉えることに成功しました。その結果、観測区間の下流側で先に侵食が生じ、その後、地形変化が上流側にも及び過程が明らかになりました。こうした詳細な観測データは、土砂流出の発生や進行を予測する手法の検証に役立つと考えています。

火山噴火後の土石流予測に向けて

雨水が地中へしみ込む能力を「浸透能」といいます。火山噴火によって細かな火山灰が山腹を覆うと、雨水が地中へしみ込みにくくなり、地表を流れる水が増えます。その水が斜面や溪流の土砂を削ることで、噴火後には比較的弱い雨でも土石流が発生しやすくなります。そのため、噴火後の浸透能を予測することは、土石流の発生を予測するうえで重要です。

本研究では、火山灰に覆われた斜面に雨水がしみ込む過程を数値シミュレーションで再現しています。その結果、薄い火山灰が堆積しただけでも、浸透能が急激に低下することを定量的に示しました（図2）。今後は、火山灰の厚さや性質の違いを考慮しながら、少ない計算量で高精度に浸透能を予測できる手法を開発し、火山噴火後の土石流予測につなげることを目指しています。

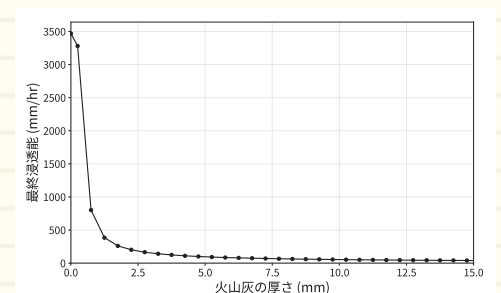


図2 火山灰の厚さと最終浸透能との関係。最終浸透能は、雨が降り続いたときに一定となる浸透能を示す

研究者たちが、研究に欠かせないツールについて愛をこめて語ります

お道具拝見

12

虫を見て川を知ろう

サーバーネットとDフレームネット

小林草平

KOBAYASHI Sohei

水資源環境研究センター 准教授



川虫とはどんな虫

川にはいろんな生物が棲んでいます。水生昆虫と聞いたら何が思いつきますか？ すぐに思いつくのは、アメンボ、マツモムシ、ゲンゴロウ、タガメ、ヤゴ（トンボ）、ホタルといった昆虫でしょうか。これらは代表的な水生昆虫ですが、最後の2つを除きほとんどが湖沼など流れのない水に棲む止水性の仲間になります。川にいるのは流れのある水に棲む流水性の仲間、カゲロウ、カワゲラ、トビケラがその代表です。流れがないと生きていけず、きれいな水を好みます。いずれも卵―幼虫―蛹のときに水中ですごし、成虫は川辺（陸上）で活動します。これら川に棲む昆虫を川虫と呼んでいます。

川虫を見ると何が分かるでしょう。たまに川虫を食べる文化もありますが、人に直接有益となることはほとんどありません。しかし、川虫は魚や鳥の餌になり、水中の有機物を食べて川をきれいにする役目があり、生態系の欠かせない一員です。また、川の水質、流れ、川底によって数や種が変わるので、川虫を見ることで川の健康状態を知ることができます。もちろん、川を見ただけで、匂いで、または水質を測れば、分かることはありますが、川虫はより多くのことを教えてくれます。魚は大きな揺れ（S波）の前のP波に反応して水面をジャンプする例が知られていますが、嵐の前の静けさと生物との関わりなど、すぐ先に迫る災害を教えてくださいませんか、私はそんな期待を持ちながら、川虫から分かることを研究しています。

	カゲロウ (150)	カワゲラ (200)	トビケラ (600)
幼虫 (水中)			
成虫 (陸上)			
	Mayfly	Stonefly	Caddisfly

代表的な川虫の仲間

(カッコ内の数字は日本における種数、下は英語)

採集の仕方、採集の質

川全域で川虫を調査するのはなかなか難しいので、調査の場所選びがまず重要です。そして、採集に使う網の種類と、その使い方が重要になります。川でよく使われるのが、サーバーネット、Dフレームネットです。

前者は、網の入口部分に四角枠がつき、一定面積（30cm×30cmなど）の川底を洗い、流された川虫を下流側の網で捕獲するもので、虫の多さを見る定量調査用になります。後者は、棒の先にDの形の口の網がついていて、狙った場所のすぐ隣に網を立てて、足でその場所を攪乱して網に流し込む（キックサンプリングとも呼ばれる）もので、種の数を見る定性採集用になります。いずれも専門店で購入します。

網の部分には、丈夫で網目が0.2–0.5mm程度のプランクトンネットが使われます。肉眼でわかる1ミリから3センチ程度の大きさの川虫を狙います。信頼性のあるデータとなるように、川虫の取りこぼしがないように、一方で後の処理や分析がしやすいように川虫以外の土砂や草木は極力取らないよう採集の工夫を行います。同じ網を使っても、網の押さえ方、網への流れの作り方、バットや篩など併用道具の使いこなしによって、取りこぼしやサンプルの処理しやすさが変わります。そのため、学生に手伝いはお願いしますが、完全に任せることはせず、最後は私が確認して採集するようにしています。



サーバーネットによる川虫の採集



Dフレームネットによる川虫の採集



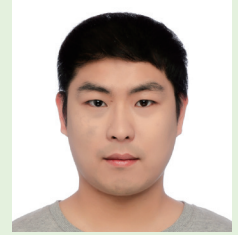
新スタッフ紹介

り えいも / Li Rongmao
李 荣茂気象・流域災害部門耐風構造研究分野
特定助教

数値流体力学シミュレーションと機械学習手法を組み合わせ、風工学に関する研究に取り組んでいます。特に、防災の視点から、乱流予測に基づく意思決定を支援するサロゲートモデルの構築と予測精度の向上を目指しています。

出身地 中国天津市

趣味 旅行、お絵描き、カラオケ、バスケットボール



DPRI掲示板

受賞・表彰・就任

所属等は受賞当時のもの

上田 恭平 准教授

2025 Editorial Board Member Award,
Soils and Foundations

[2026年5月26日]

■受賞理由

In recognition of outstanding contribution as an editorial board member for Soils and Foundations

小柴 孝太 助教、角 哲也 特任教授ほか

令和7年度ダム工学会賞論文賞(IV類 維持管理部門)

[2026年5月14日]

■受賞論文

音響測深機を使用したダム貯水池深浅測量における測深精度と湖底地形との関係

松本 知将 助教

令和7年度
応用力学論文奨励賞

[2026年5月16日]

■受賞論文

Surface reflection 法による栈粗度上の水面流速場の可視化計測

王 功輝 教授

公益社団法人日本地すべり学会
第22代会長

[2026年6月12日]

王 功輝 教授

Top viewed article,
Geophysical Research Letters

[2026年5月15日]

■受賞論文

Shear Behaviors of Confined Flow: Insights for Understanding the Influences of Fractal Particle Size Distribution on High Mobility of Granular Flows

竹見 哲也 教授

第44期日本気象学会理事長
(第43期から継続)

[2026年5月15日]

西嶋 一欽 教授

Special Recognition for Sustainable Development,
UNESCO Asia-Pacific Awards for Cultural Heritage Conservation 2025

[2026年2月19日]

■受賞題目

Vernacular Constructions in Tanna Island Conservation Project, Tanna, Vanuatu

船曳 祐輝

(地震防災研究部門／理学研究科地球惑星科学専攻D2)

JpGU-AGU Joint Meeting
2026学生優秀発表賞(固体地球科学セクション)

[2026年7月10日]

■受賞題目

Estimating Source Process of Micro-to-Small Earthquakes by Slantstacking DAS records

Kun-Sian Lin

(元博士課程学生、
現防災科学技術研究所研究員・防災研研究員(非常勤))ほかMost Cited Paper Award 2026,
Japan Architectural Review

[2026年8月6日]

■受賞論文

Investigation of low-disturbance seismic retrofit method for steel column bases using curved members (Japan Architectural Review 7.1 (2024): e12429)

宇野 大輝

(水資源環境学研究中心修土課程
2026年3月修了)Best Young Author Award 2026,
the ISPRS Congress

[2026年7月5日]

■受賞論文

Refraction-Aware Gaussian Splatting for Shallow Water Bathymetry from UAV Imagery

竹 順哉

(巨大災害研究センター D3)

気象庁長官表彰

[2026年6月1日]

■発表題目

新たな防災気象情報について普及啓発対象者との意見交換を通じた広報資料の改良に尽力しその普及啓発に寄与した功績

岩井 智哉

(気象流域災害研究部門流砂・砂防研究分野D2)

令和8年度砂防学会賞論文奨励賞

[2026年5月13日]

■受賞論文

溪床堆積物が土石流化する場の条件に関する感度分析－改良版SiMHISの神通川水系ヒル谷への適用－(砂防学会誌, Vol. 77, No. 1, p. 17-24, 2024)

藤田 裕

(巨大災害研究センター M1)

第57回(2025年度)地域安全学会研究発表会(秋季)
地域安全学会優秀発表賞

[2025年10月25日]

■受賞題目

「ブラックアウト大作戦」参加者の意識および行動変容に関する追跡調査とその考察

>>> 人事異動

*教授・准教授・講師・助教・職員(それぞれ常勤・特定・特任)について掲載(支援職員を含む)。名称付与は新規のみ掲載。

[2026年4月4日]

社会防災研究部門国際防災共同研究分野(外国人客員)
HARMAN, Ciaran Joseph 客員准教授/任期満了

[2026年4月30日]

社会防災研究部門国際防災共同研究分野(外国人客員)
WESTLUND, Hans Gustav 客員教授/任期満了

気候変動適応研究センター河川防災システム研究領域 山本 一美 支援職員/辞職

[2026年5月1日]

気象・流域災害研究部門耐風構造研究分野
Li, Rongmao 特定助教/採用←特定研究員より

[2026年5月16日]

水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域 岩木 真穂 特任助教/名称付与

[2026年5月31日]

社会防災研究部門災害リスクファイナンス(SOMPO リスクマネジメント)研究分野(産学共同)
鶴島 大樹/任期満了

[2026年7月1日]

巨大災害研究センター災害リスクマネジメント研究領域 上米良 秀行 特任助教/名称付与

[2026年8月1日]

巨大災害研究センター国際災害情報ネットワーク研究領域(外国人客員)
YEGANEHI, Mohammad Reza 客員准教授/採用

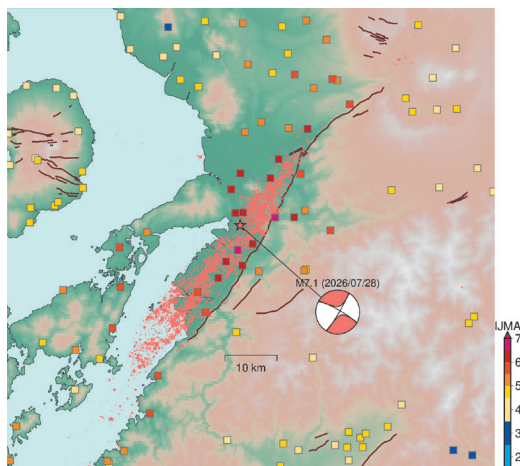
災害調査報告

令和8年熊本地震についての災害調査報告

2026年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」により亡くなられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

当研究所ではこの地震についての調査研究を進めており、第一報として地震動の特性などの資料を公表しました。今後も災害調査報告を随時追加掲載していきます。以下の二次元バーコード・リンク先をご参照ください。

https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/disaster_report/



京都大学宇治キャンパス公開 2026

「ひらけ！ 科学の玉手箱」

2026年10月17日(土)・10月18日(日)

10:00~16:00

今回は講演会をリニューアル、トークライブも開催します。
防災研からも多くのラボが参加します。

詳細は二次元バーコード・リンク先からどうぞ！

<https://www.jimu.uji.kyoto-u.ac.jp/open-campus/2025/>



編集後記

本号の特集「Q&A防災研の先生に聞いた!!」では、DPRI Newsletter 史上初めて防災研の先生全員を対象としたアンケートを取り、先生のお仕事やプライベートを深堀りしました。アンケートでは、予想よりも多くの先生から回答をいただきました。この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。気軽に回答いただくために回答者は匿名とし、選択式の設問を多く採用しました。しかし、「その他の回答（自由記述欄）」にまで多数の回答をいただき、先生の個性が現れ、大変楽しく集計させていただきました。

た。本号の特集は、所内や同僚だけでなく、研究者に興味のある若い世代や子どもたちにもぜひご覧いただきたい内容となっているかと思います。この特集が防災研の先生だけでなく、研究者全体に親しみを持っていただくきっかけとなれば幸いです。何年後に同様のアンケートを取ると結果が変わるかもしれない点も興味深いので、今回の一度きりではなく、2回3回と実施したいですね。

(丹治星河)

「DPRI Newsletter」のほかに、こちらからも防災研の情報がご覧になれます。



ホームページ

<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>



YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/@dpri-ku>



Facebookページ

<https://www.facebook.com/DPRI.Kyoto.Univ>



X

<https://twitter.com/dpripriwit>



メールマガジン (登録ページ)

https://dpriicon.dpri.kyoto-u.ac.jp/mailmagazine/mailmagazine_user.php

京都大学防災研究所

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

編集／京都大学防災研究所 広報・出版専門委員会、広報出版企画室 発行／京都大学防災研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 Tel: 0774-38-3348 (代表) 0774-38-4640 (広報)

ご意見・ご要望はこちらへ toiawase@dpri.kyoto-u.ac.jp

2026年10月発行